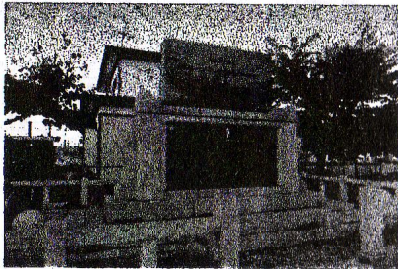


大野平野地区国営総合 かんがい排水事業竣工記念之碑

大野地区が竣工して、一本木幹線用水路終点付近の
萩野小学校敷地内に建立。

題字：内閣総理大臣 福田赳夫書

「大野平野地区国営総合かんがい排水竣工記念之碑」



昭和五十三年十一月吉日

大野平野の米作りは、後幕領期の安政年間に安定したと言われ
すが、明治時代に頼って造田は本格化した。当時、水源は久根別
川と大野川に頼っていました。両河川とも蛇行が激しく、そのため
水流はなはだしく阻害され、流域では用水論争や水争いが珍しく
ありませんでした。

私達の祖先は、ありとあらゆる水源を使いつくし、最後に大沼の
水に着目し、大沼疎水工事を計画しました。道庁では技師を派遣し
調査しましたが、多額の経費を要するため実施の運びにいたりませ
んでした。明治三十五年亀田・七飯・大野・上磯の四ヶ村で、大沼
疎水組合が結成されましたが、洪水の心配と工事費負担の点で挫折
しており、当時の村長の苦勞は水泡に帰してしまい、大沼の水は永
久に平野を流れることはあるまいと思われたのであります。

戦後縮小された国土の食糧増産問題からんで、大野平野三千ヘ
クタールの用水不足が指摘され、大沼の水温の高い水を導入するこ
とが再びとりあげられました。更にその際、導入口の急勾配を利用
して古峠に発電所を新設し、大沼発電所を切り替えようというま
さに一石二鳥の計画に発展し、強力に推進されました。

昭和二十五年には、四ヶ町村の町村長が地元住民の要望にこたえ
渡島支庁長副申つきの陳情書を道の土木部長宛提出し、導水事業推
進の火蓋が切られました。翌二十六年には国営かんがい排水事業と
して採択され、二十七年には国営事業として正式認可をうけるため
四ヶ町村耕作者代表十八名が申請書を提出し、二十八年には知事の
予備審査終了の告示をうけたのであります。

その後、幾多の紆余曲折を経て、良識と誠意は遂に勝利をもたら
し、昭和三十六年には盛大な起工式を挙行いたしました。そして、
昭和四十年一月十一日、大沼の水はとうとうと大野平野に流れこ
んだのであります。先人の抱いた夢は百余年の歳月をこえて遂に大
野平野をうるおしました。

着工以来あらゆる困難に打ち勝ち勝ち世紀の大事業は、昭和五十三年
度完成の時を迎えここに輝かしい歴史の一頁を開いたのであります。
これ等苦難の道を開いたことを銘記し、事業の完成を記念して碑
を建て、功勞のあつた方々のご芳名を刻み、後世に永く伝えようと
するものです。